



ROTARY CLUB OF
NARA—WEST
DISTRICT WEEKLY BULLETIN
2650 No. 2394 2020. 6. 4

創立 1969年(昭和44年)12月13日
例会日 毎週木曜日18:00より
事務所 〒630-8001 奈良市法華寺町254番地
例会場 奈良ロイヤルホテル内
TEL 0742-34-1131 FAX 0742-30-2000

2019～2020年度
国際ロータリーのテーマ

2019～2020年度
地区のスローガン



伝統と革新
世界はひとつ



国際ロータリー会長
マーク・ダニエル・マローニー

RI第2650地区ガバナー
佐竹 力總

美並P会長
正倉院展にて 永遠に元気で

川野会員
休日に家族と USJにて

会 長 安井 清悟
会 計 相澤 万裕子
理 事 渡邊 巖

副 会 長 杉村 仁
会場監督 井上 直治
会報委員長 野阪 幸男

会長エレクト 佃 尚彦
理 事 植野 洋志

直前会長 追山 重法
理 事 谷垣 嘉輝

幹 事 佐川 寛一
理 事 金田 宗寛

今月は ロータリー親睦活動 月間です

第26回(2394回)例会プログラム令和2年6月4日(木)

1. 開会宣言 点鐘
2. ソング「君が代」「奉仕の理想」
3. 出席報告
4. 会長の時間・理事会報告
5. ニコニコ報告
6. 委員会報告
7. 幹事報告
8. 閉会宣言 点鐘

第25回(2393回)例会報告 2020. 2. 27(木)

奈良RC合同例会
奈良ホテルにて

出席報告

	会員数	出席計算 免除会員数	出席会員数	欠席者数	出席率
通 算 2393 回	44	6/12	20/32	12	68.4%
通算2391回修正	44	6/12	32/32	0	100.0%

会長の時間 (安井会長)

奈良クラブとの合同例会に奈良西会員の皆様が多く来ていただきありがとうございます。こちらでは昼例会という事でちょっとなじみがありません。由緒正しき奈良ホテルで例会が開ける事も大変うれしく思っています。今日は奈良クラブの花山院会長様、朝廣幹事様はじめ、多くのP会長、会員の皆様。奈良西クラブをご招待いただきました事幸甚に存じます。そして私共のクラブ設立50周年記念例会の時は会長幹事様はじめ多くの皆様方にお祝いの言葉を頂いております。この場をお借り致しまして奈良クラブの皆様方に御礼申し上げます。

先ほど花山院会長からの会長挨拶で世間を騒がすコロナのお話を頂きました。奈良西からは親クラブとの合同例会ですので例会についてのお話で御座います。ロータリークラブは“奉仕の精神が必要”とか“親睦を大事に”とか言いますが、まずは例会の充実が大変大事な事と思います。会員間の触れ合いも例会ですし、情報交換する場も例会場です。例会の充実がクラブの退会防止に最も役立つことと思います。美味しい食事必要でしょう。ありがたい卓話も必要です。勿論ロータリーのステータスを維持するための、ホテルの接待も必要です。そして後半から始まる卓話の時間。これも大事な時間です。

例会前、奈良西では受付周辺をサロンに見立てて、そこで仲のいい会員の皆様が歓談されています。コーヒーを飲む方もおられますしアルコールをたしなむ方もおられます。そこで少しの時間を過ごし例会場に入っていく。私はこの様な事が行きやすい例会につながるとしています。当該年度の役員に当たった方は、歓談に入ることは無く例会をスムーズに進める様に段取りを行っております。

たかが例会。されど例会。ロータリークラブの基本で御座います。奈良ロータリーの皆様方と楽しい時間を過ごせます事祈念致しまして会長の時間とさせていただきます。

出席表彰



■ 2月出席表彰 ■

松川 信夫P会長 （在会29年）

おめでとうございます

ニコニコ報告

松川信夫P会長

出席表彰ありがとうございます。

三木武彦P会長、有馬康明P会長、猪上正孝、下村由加里、植野洋志、野阪幸男、寺田信弘、中井肇一、福川益則、木村和弘、加藤又弘会員

本日は奈良ロータリークラブとの合同例会、親交を深めたくよろしくお願いいたします。

奈良ロータリークラブ 花山院会長

奈良西さん、合同例会よろしくお願いいたします。

奈良ロータリークラブ幹事 朝廣幹事

本日は合同例会大変お世話になります。

時節柄どうかお体ご自愛下さい。

幹事報告 （佐川幹事）

3月5日および12日の例会は、新型コロナ対策の政府の緊急要請もあり、例会を中止すると理事会で決議致しました。



理事会報告報告 （3月19日）

- 1: 今回のライラ研修の参加募集が2650地区から来ている件について
金田理事から下村会員に今年度参加者がいるかどうか確認する。
後日、安井会長に下村会員から連絡あり。今回の参加は無いとの事。
- 2: コロナウイルスの影響で3月の例会が全て休会となっている。ピアノさんの報酬をどう扱うか。
契約書を確認して1回につき幾らかと明確に書かれていたら再考する。後日事務局にて確認。
契約書が無いために、支払う事で決定。会計に会長から連絡。
- 3: 4月以降の例会と親睦活動について
4月は第1第2例会をコロナウイルスの影響で中止。第3例会以降はその時の状況を確認して、会長幹事で協議する。
後日4月2日に安井会長、佐川幹事、追山P会長が奈良市社会福祉協議会に出向いた折、4月16日の早朝例会を「コロナウイルス撲滅の祈禱例会」として霊山寺で行う事を確認。
次の第4例会は未定。
- 4: 名誉会員の細則規定について
第14条 名誉会員
定款第10条第6節の規定により名誉会員の資格を得ようとする会員は、概ね30年間本クラブに在籍しその功績が特に顕著な者で、本クラブの会員5名より推薦された後、会長会の承認を受け、理事会において決定されるものとする。で承認。

『北村家の漆工芸』

漆工芸家 北村 繁様

みなさまこんにちは。奈良で漆の仕事をしている北村と申します。今日は奈良ロータリークラブ、奈良西ロータリークラブの合同例会の卓話にお声掛けいただきお礼申し上げます。「北村家の漆工芸」ということで、内輪の話が中心になろうかと思いますが、お付き合いよろしくお願いします。

私共が携わっている漆工芸は、漆を原材料として作る工芸品です。漆はウルシ科のウルシノキという木から採れる樹液であります。ウルシ科の植物というのは世界中に数百種類あるといわれており、身近なところでは、マンゴーもカシューナッツのカシューなどもウルシ科になります。漆は肌に付くとかぶれてアレルギーを起こすという難点もありますが、古く縄文時代から生活の中で使われてきたものであります。

現在、日本で一番の産地は岩手県の二戸市浄法寺というところですが、茨城県のあたりでも採られています。年間1.8トン程度の漆が採取されています。10年から15年くらいの木の下に傷をつけ、そこからしみ出てくる漆の樹液を一滴ずつ6月から10月くらいにかけて採取します。一本の木から200g、お茶碗一杯くらいの漆が採れるといわれています。漆というと漆黒、黒のイメージがあると思いますが、採れた時は牛乳のような真っ白な色をしており、それが酸化反応を起こして固まる訳であります。

そういう樹液を塗料また接着剤として使い、様々な素材、蒔絵であれば金属の粉、また螺鈿という漆に貝を文様に切って貼り付ける技法、そういうもので飾りつけをしていくのが漆工芸であります。

縄文時代から始まり、正倉院宝物、或いは春日大社の古神宝類など、奈良時代、平安時代以降、脈々と続いてきて、私共も含め奈良の地で漆の仕事に携わっております。このように古くからあるものなので「奈良漆器」も古くからあるものかといえますと、決してそうではありません。

明治時代以降、廃仏毀釈で荒廃した文化財等を調査して、それを復興させる目的で国内博覧会などにおいて紹介され、改めて工芸、文化財に光を当てられることになった訳です。明治22年に奈良で「温故社」という工房が設立され、そこから「奈良漆器」といわれる奈良の漆器が大々的に始まっていった歴史があります。その立ち上げのメンバーに北村家の先祖にあたる吉田家というのがございました。吉田陽哉という父と三人の息子たち、長男が立斎、次男が私の曾祖父になります北村(吉田)久斎、包春という三人がおりまして、彼らが中心になって「奈良漆器」の活動が始まってまいります。私の曾祖父の北村久斎は、父陽哉が幼少の頃に亡くなり、長男の立斎について包春と共に修業をしてまいります。明治28年に母方の北村の姓を継いで、北村久斎として独立して漆芸の世界に従事しました。昭和34年に85歳で亡くなるまで様々な活動をしておりまして、正倉院宝物の修理や模造制作、春日大社の大塗師職を拝命し、或いは国内の工芸の展覧会等に出品しながら活動を続けてまいりました。この頃は日本の社寺仏閣に残っている古い名品といわれる文化財を元にして、それに倣った漆器が作られているものが多くございました。画面上の螺鈿の卓は、平泉の中尊寺の堂内具のひとつを元にしており、下は瓶掛ですが、当時の生活の中で漆を取り込んだものを制作しております。

北村久斎の長男の北村大通は、私の祖父であります。明治43年に生まれ、昭和3年に東京芸術大学(東京美術学校)を卒業しました。大阪の北浜のあたりの宝飾店に勤めながら、家業の漆の仕事を続けておりましたが、日中戦争で中国に渡ることになり、無事に帰ってこれれば家業の漆一本で生きていこうという決心で中国にまいりました。その時に上陸した場所が「大通鎮」という土地で、その地名から取って雅号を北村大通として活動をしました。昭和50年には紫綬褒章を頂戴し、51年には漆工品の修理の分野において、国の選定保存技術保持者の認定を受けております。平成4年に82歳で亡くなるまで、正倉院宝物、當麻曼荼羅厨子、春日大社の蒔絵筆などの修理或いは模造復元をはじめ、多くの国の指定文化財の修理、復元に携わってまいりました。また日展や伝統工芸展で自身の作品を出品し活動をしてまいりました。



こちらに少し紹介させていただいておりますが、上が當麻曼荼羅厨子の軒先の屋根板。見たところ黒い漆塗りのように見えますが、真中の白黒写真では模様の剥落痕が見えます。それが昔の「平脱」という、金属を文様に切って貼ってあった加飾の痕ということが判明し、それを元に作ったのが上の復元模造になります。或いは下の正倉院宝物の中の螺鈿箱。これは革の玉帯といわれるバンドを入れるための箱ですが、この模造制作に携わりました。

一方自身では、このような水指や筥を、私共の得意とする厚貝螺鈿や平脱を用いて、制作をしております。私事で恐縮ですが、私はこの上の水指が子供のころから非常にモダンで気に入っております。

私の父、北村昭斎は大通の長男として、昭和13年に生まれ、東京芸術大学の工芸科を卒業しております。当時、松田権六先生等に師事しながら、漆の勉強をしておりました。卒業後は早川電機工業、現在のシャープでデザイナーとして働く傍ら家業の漆をしておりました。その後、シャープを退社し、漆の家業一筋でまいっております。日本工芸会という工芸団体に所属して、昭和42年に日本伝統工芸展という展覧会に出品、初入選いたしました。それ以降、現在に至るまで作家活動が続けながら、作品の発表などをしております。

昭和53年には父、大通とともに、春日大社の蒔絵筆の修理、引き続き復元模造に携わっております。平成6年に大通と同じく、国の選定保存技術保持者(漆工品修理)の認定を受け、平成11年には螺鈿でいわゆる人間国宝、正式には重要無形文化財保持者の認定をいただいております。正倉院や国の指定文化財をはじめとした漆工品の修復、模造制作を手掛けながら自身の作品制作も行い、また海外とも交流があり、そういう仕事にも関わらせていただいております。画面の春日大社の蒔絵筆は上が原宝物になります。長年社の中にあつたので、蒔絵などが見えない状態だった訳ですが、クリーニングされて蒔絵や螺鈿が鮮明に見えるようになり、それらを元にして下の模造を制作しております。

近年においては金地螺鈿毛抜形太刀、金地の蒔絵の中に、猫が雀を竹藪の中を追いかけ捕らえるさまを絵画的に表現してある、平安時代を代表する漆工品のひとつですが、この復元模造制作にも携わらせていただいております。こちらが作品です。螺鈿というのは板状の貝を文様に切って貼りますが厚さが色々あり、正倉院や春日大社に見られるような古代の螺鈿技法は比較的厚い1mm位の貝を文様に切って加飾する方法です。後の時代には薄貝といって0.1mm~0.3mmという非常に薄い貝を使った装飾も行われていますが、私共が得意にしているのは厚貝の螺鈿であり、昭斎の作品もその厚貝螺鈿を中心に蒔絵を合わせております。関わらせていただいた仕事の経験もあり、本体の木地の部分も自身で作ることにより創作性の幅が広くなり、優れた作品ができていくのかなと私は捉えております。

私は三人兄弟の次男で、長男がおり、一番上に姉がおります。姉は嫁いで姓が変わっておりますが、小西寧子という名前で同じく漆の活動をしております。私は大学時代には金属に興味があり、金属工芸を専攻しておりました。卒業後に昭斎の下で漆を始め、それから一年間ドイツに留学した時期もありましたが、その後、昭斎の下で文化財の修復や自身の制作を行い工芸会に所属して活動を続けております。現在は指定品や正倉院の宝物のをはじめとした漆工文化財の修復をさせていただいたり、海外のものに関わらせていただいております。こちらの作品ですが、昭斎の下で技術を学んでおりますので、厚貝螺鈿を中心に蒔絵を使ったり、また金属を触っていたこともありますので、金属を合わせ込んだりということで、自身の作品を作っております。

漆工品の文化財修理に関してお話させていただきます。例えばお椀が壊れて使えなくなれば、使えるように直すというのが一つの修理方法と思いますが、文化財というのは昔から伝えられてきている技術的・美術的な色々な情報を含んでいます。それらのオリジナリティをできるだけ後世に残していくというのが修理になります。

そういうことで、適切な材料を使って、必要最小限の存命処置を行うということがいえるかと思います。

漆というのは非常に特殊な材料、技術的にも特殊なところがありますので、そういう技術や特性を良く分かっている者が修理を行うというのがあります。そうやって修理をした経験が、自身の制作にもフィードバックされることがあり、お互い作用しているところがあると思います。例として、京都の本法寺というお寺の経箱です。上は修理前で、蓋が壊れていたものをできるだけその形を残すような修理をしました。或いはこちらは近年海外で関わった仕事です。

桃山時代に宣教師が日本に来て以降、西洋の人たちが漆という東洋独特のものに魅力を感じた結果、西洋風のものが日本で作られ西洋に沢山渡っています。そういうものが今でも欧米や世界各地に残っていますが、その材料や技術はアジア圏、特に日本に残っているので、海外にあるものを残していく技術協力を私共も関わらせていただいています。こちらはポーランドのワルシャワの宮殿にあるダイニングテーブルで、西洋風のものなのですが、漆で作られています。こういうものをできるだけ残していく協力を私共もできればということで、このような仕事をさせていただいております。

また絵巻物などの軸の端の飾りで漆のものが残っていたりします。軸首といいます。絵画の修復の中で新調、また古く残っているものを模して作るという仕事もさせていただいております。復元模造については材質、技法、構造などをしっかり調査して制作していきます。先ほどご紹介したこちらの金地螺鈿毛抜形太刀に関しても、原宝物の太刀をしっかりと調査した上で制作にかかっており、調査の中で色々分かるものがあります。この太刀の柄の部分は、当初は銀に金が鍍金されていたものだろうと考えていたのですが、調査すると全て金で作られているということで、金を削り出して装飾をして仕上げました。このような模造制作の中で、技術的にも色々なことが明らかになり、情報が分厚くなっていくということも多々あります。

これは昨年出来上がった正倉院宝物の螺鈿紫檀五絃琵琶です。復元模造には足掛け8年かかり昨年の春によく出来上がりました。CTや色々な調査を行い、材料・形状・技術をできるだけ忠実に残していくという仕事でできたものです。4月から奈良国立博物館で、これまでの正倉院宝物の模造事業で作った復元模造を紹介する展覧会が行われる予定になっており、こちらについても紹介されることになっております。お時間が許しましたらご覧いただければと思います。

私共はこういう仕事をさせていただいているのですが、漆、螺鈿の貝、蒔絵の金粉、蒔絵を描く筆など、色々な道具・材料を使って形にする、或いは古い物を直したりします。こういう材料・道具は全て我々が作るのではなくて、夫々専門の職人さんがおられ、そういう方々によって材料・道具が調達でき、我々の仕事が成り立っているというところがあります。しかし現代の状況の中では、高齢化や材料・道具の枯渇で、先行きが不安視されています。漆に限らず伝統工芸全てに言えることですが、こういうところが残っていったら、我々の仕事が残っていけるのかなと考えております。そういうこともあり、自分たちで現状を把握する意味で調査をしたり、或いはこれから日本を支えていく若い人たちに伝統工芸に馴染みを持ってもらうために学校で授業をしたり、パンフレットを作ったりしながら、今後に繋いでいく活動をさせていただいております。

以上、内々の北村のことをはじめ、漆の紹介をさせていただきました。ありがとうございました。



梅花文蒔絵螺鈿箱



螺鈿蒔絵箱「逸遊」

奈良新聞3月19日掲載

奈良西ロータリークラブ会長

安井 清悟さん(58)

奈良西ロータリークラブは、新型コロナウイルス感染症予防策として、3月初旬から休会を余儀なくされている。3月はこれまで一度も例会が開けず、ロータリアンの皆さんとの交流も少なくなかった。県内のほとんどのクラブも同様に休会している。それぞれ長年にわたって毎週例会を行ってきたが、各クラブが独自の判断で決定したと思われる。4月に実施予定だった、奈良をはじめ京都、滋賀、福井

休 会

各府県で構成されるロータリー12650地区の地区大会も中止になった。クラブ会員の方々も今回のような状況を経験した事がなく、奉仕活動や親睦活動にも大きく影響している。どの活動にも多くの人が集まるのでやむを得ないこともある。ウィルスといえば、国際ロータリーは「ポリオ撲滅」を掲げて長年活動が続けている。これまでに122カ国、

25万人以上の子供たちにポリオワクチンの予防接種を行ってきた。世界の発症数はほぼゼロに近い数値にまで減っているが、残念ながらまだ根絶には至っていない。このようにロータリーは地域への奉仕活動だけでなく、世界に向けてさまざまな疾病対策の奉仕活動を実践している。Ⅱ第3木曜掲載予定Ⅱ



奈良西
ロータリークラブ
設立50周年
通信

9



国際ロータリーのポリオ撲滅活動を紹介する啓発ポスター

世界の疾病に対策活動



1: 報告事項

第2回鷗尾の会(奈良クラブが幹事)が書面会議になりました。次年度の幹事クラブは、通常通り奈良大宮クラブとする。

2: 報告事項

第2回鷗尾の会ゴルフ会(奈良西クラブが幹事)は延期とされてきたが、年度が終盤に入ったため、中止とする。次年度の幹事クラブは、奈良西クラブが幹事クラブとして行う。その後の幹事クラブは順送りとする。

3: 奈良ロイヤルホテルから賃借している事務局の家賃設定について。(大濱P会長より提案)

現在の世間相場を聞いたうえで、ホテル側と交渉を行う。

4: 例会場について(大濱P会長より提案)

例会場の使い方について可能性を探ってみる。今後の審議は会長会にて審議決定の後、理事会にて承認を得る。この案件は第3号議案も同じ扱いとする。

5: 6月の例会、及び家族親睦について

出来る限り開催の方向にする。緊急事態宣言解除などの関係があるので月末までに会長幹事で結論を出し、会員に報告すること。

6: 年度終了時の会計残金の取り扱いについて

今年度の会計残金は決まった金額で現金で返金する。金額については今年度が終了した時の残金を会長、幹事、会計で協議。通年程度の金額を周年事業積立金に入れ、残りを会員全員に返金する。

7: 特別会計の扱いについて

特別会計の扱いが一部の会員にのみが解っていて当該年度の会長などがほとんど理解できていない事が判明した。今年度からは会長副会長幹事会計の四役で会計内容を相互確認する様に改める。

Rotary



奈良西RC通信

奈良新聞4月16日掲載

奈良西ロータリークラブ会長

安井 清悟さん(58)

国際ロータリーには「青少年交換学生制度」という1年間の留学に似た取り組みがある。この制度は、日本と世界各国の高校生が互いの国に1年間留学し、相手の国や日本の文化、歴史などを学び、紹介するために設けられたロータリークラブ独自のものだ。奈良西ロータリークラブも昭和56年からほぼ毎年、世界各国から生徒を受

今できることを“実行”

渡航自粛

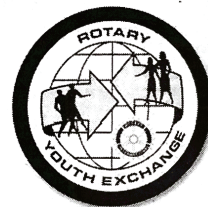
け入れ、派遣もしてきた。今年もブラジルへ派遣する高校生が決まっていた。ブラジルからは7月に交換留学生が来日する予定だった。しかし新型コロナウイルスの感染が世界中で広がっていることから、国際ロータリーでは次年度の青少年交換の中止を決定。世界各国で行われていた

留学生の行き来が1年間休止することになった。われわれのクラブでも40年近く続けてきた奉仕事業。ぜひ今年も実現したいと考えていたので残念だ。新型コロナウイルスの猛威が7月ごろまでに収束してくれることを願うばかりだ。また、私たちの所属する国際ロータリー2650地区大会も中止に。さらに6月に来ハワイ・ホノルルで予定されていたロータリー国際大会も中止が決まった。そんな一方で、国際ロータリーも新型コロナウイルス感染拡大への対応に乗り出している。世界各地でマスクの寄付をはじめ、自分たちでできることを実行に移している。アイサーフ(私は奉仕する)の精神はどのような場面でもロータリアンの心に刻まれている。

第3木曜掲載予定

奈良西 設立50周年
ロータリークラブ
通信

10



国際ロータリーの
青少年交換学生
制度のエンブレム



山川会員
自宅前にて



寺田会員
釣り大好き



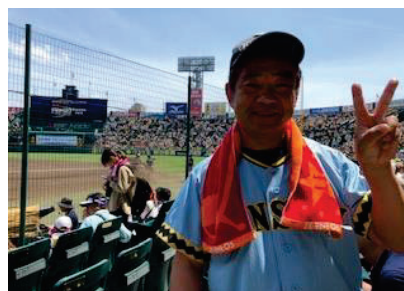
中井会員
コロナに負けません



三木P会長
2017年3月長野県白馬村に



小松会員
初めての劔岳



加藤会員
今年こそ優勝や～(甲子園にて)



松山会員
桜の季節になりました。吉野の桜です。
早く平穏になり、花見に行きたいものです。



中西会員
奈良市役所にて

第27回(通算2395回)例会予告

例会日 令和2年6月11日(木)

年度末家族親睦移動例会

(担当:野阪、オフォス)